

そう だい
総 題 「神の宣教、私の宣教」

だいじゅっ か つた ひとびと せんきょう いち
第10課 伝えられていない人々への宣教 (その1)

こ はまもりひろ
小濱守宏

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

こんしゅう
今週のポイント

こんしゅう じぶん いごこち よ かんきょう と だ みし ひとびと ちが ひとびと さま
今週は、自分の居心地の良い環境から飛び出して、見知らぬ人々、価値観の違う人々にどのようにイエス様を
つた よ けいけん とお まな
伝えたら良いのか、パウロの経験を通して学びます。

に にちようび じん
2. 日曜日：アテネのヘブライ人

パウロは、神様がアテネに住む人々を救いたいと望んでいることを知っていました。
しかし、アテネという町は、いたる所に偶像があり、また、人間の知恵を頼りにしている哲学を大切にしている
ひとびと おお す ばしょ ひとびと しん かみさま しん いほうじん じん おな ほうほう でんどう
人々が多く住む場所でした。アテネの人々には、真の神様を信じている異邦人やユダヤ人と同じ方法では伝道
できないことをパウロは悟り、アテネの人々が集まる広場に行き、情報を集め、研究しました。そしてアテネ
ひとびと つた ほうほう み でんどう こころ
の人々に伝わりやすい方法を身につけて伝道を試みました。

さん げつようび
3. 月曜日：アレオパゴスのパウロ

かみさま しめい あた い かた かちかん ちが ひとびと あつ ひろば おもむ かみ つた
神様から使命を与えられたパウロは、生き方や価値観の違う人々が集まる広場へ赴きイエスという神を伝え
はじめます。パウロの話聞き興味を持ったアテネの人々は、アレオパゴスという裁判所に連れて行きました。
ひとびと じょうねつ み ことば かんどう はなし き もくてき つ い
人々は、パウロの情熱に満ちた言葉に感動して話を聞く目的でアレオパゴスにパウロを連れて行っただけで、
さいばん
裁判するつもりはありませんでした。

パウロは、聖霊の導きのもとアテネの広場で人々と交わり、アテネの人々の考え方を学び、アテネの人々が
わ ほうほう さま つた さま こと てつがく い か つた
分かりやすい方法でイエス様をお伝えしたのです。つまり、イエス様の事をギリシャ哲学ふう言い換えて伝えた
のです。

ざつたん
雑談

てつがく は ことば
(ギリシャ哲学のストア派 エピクテトスの言葉)

しぜん にんげん ひと した ふた みみ あた はな ばいたにん ことば き
「自然は人間に一つの舌と二つの耳を与えた。それは、話すことの倍他人の言葉を聞くためだ。」

せいしよ しよいつしやうじゅうきゆうせつ こうごやく
聖書ヤコブ書1章19節 (口語訳)

あい きやうだい し ひと き はや かた いか
「愛する兄弟たちよ。このことを知っておきなさい。人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくある

べきである。」

聖書とギリシャ哲学の教えは、どこかに似ているように見えますが、徹底的に違うのはギリシャ哲学には、神の存在がないということです。

4. 火曜日：パウロと知られざる神

パウロは、アテネの人々を認め尊重する態度で接しました。具体的に見てみましょう。「・アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつ一方であることを、わたしは認めます。」(使徒言行録 17:22)と語りました。

パウロの態度は、人々を気遣い、アテネの人々の幸福を願う人物として良い印象を受けました。具体的に見てみましょう。アテネのいたる所に「知られざる神に」と書かれた碑文(石に刻まれている文章)を会話のきっかけにして、アテネの人々が作った「碑文を知っていますよ。」と共通の話題を見つけ話し始めました。この方法は、相手の心に共感を呼ぶ素晴らしい接し方です。聖霊の働きかけは、具体的です。

5. 水曜日：新しい神の紹介

パウロは、アテネの人々と仲の良い関係を作りました。アテネの人々は、パウロが伝えたい事を聞く準備ができました。そして、パウロは本当の神様を伝えました。

パウロは、「全てのものは、私が伝える神が創られた。そして、その神は、人が作った神殿には住みません。私の伝える神は全ての命と必要なものを全て与えてくださるお方です。」と語りました。アテネの人々は、それを聞いて本当の神様を信じる一歩を踏みだしました。

(パウロがアレオパゴスの広場で演説したまとめ)

① アテネの人々の神様を求め誠実さをほめました。

② パウロは、アテネの人々の信仰心を観察して尊敬できる場所を見つけ、伝えました。

③ パウロは、アテネの人々の宗教を研究し、足りないところを教えました。

④ アテネの人々が知らない本当の神様は、そば近くにいると伝えました。

⑤ 本当の神様を受け入れないと永遠に滅んでしまうことを警告しました。

パウロの伝道方法は、相手に寄り添い、相手を知り、相手を理解して、分かりやすい言葉でイエス様の愛を伝えることです。

6. 木曜日：一線を越える

パウロは、非常に効果的な方法でアテネの人々の心をつかみました。パウロは、聖書の考え方とアテネの人々の考え方や信仰心の共通点を見つけて聖書の真理であるイエス・キリストの復活と天国の希望を教えました。アテネの人々に聖書を理解してもらうためにパウロは、ギリシャの詩人の作品も使いました。パウロは、本当に柔らかい考え方を持っていました。

パウロは、^{せいしょ}聖書の^{しんり}真理を^{つた}伝えるために^{どりよく}努力しました。しかし、^{すべ}全ての人が^{ひと}導かれたのではありません。^{しんり}真理を^{こば}拒み、パウロを^{ひと}バカにする人もいました。人に^{ひと}嫌われることは^{きら}辛いことですが、パウロは、^{たいせつ}大切なメッセージを^{おほ}多くの人に^{つた}伝えることができました。これはとても^{じゅうよう}重要なことです。^{すく}救いの^{えら}選択は、^{つた}伝える側でなく、^{がわ}メッセージを^き聞いた人^{ひと}にあります。^{わたし}私^{ほうほう}たちもパウロの^{もち}方法を用いて^{でんどう}伝道するならば、^{かみさま}神様の^{きせき}奇跡を見る^みことができるかもし
れません。

7. ^{なな}金曜日^{きんようび}：まとめ

^{こんしゅう}今週は、パウロを^{とお}通して^{こうかてき}効果的な^{でんどうほうほう}伝道方法を^{まな}学びました。まず、^{わたし}私たちは、^{いごち}居心地の^よ良い^{ぼしょ}場所から^と飛び出し
て、^{さま}イエス様を^{つた}伝えたい人々の^{ひとびと}価値観や^{かちかん}文化を^{ぶんか}研究するために^{けんきゅう}アレオパゴス（^{あかし}証の場）^ぼに向かいます。パウロが
^{ひとびと}アテネの人々に^{せつ}接したように^{あいて}相手の^{すば}素晴らしいところを^{みと}認め^ほ誉めます。そして^よ良い^{かんけい}関係が^{きず}築けたときに^お惜しげもな
く^{せいしょ}聖書の^{すば}素晴らしさを^{つた}伝えるのです。

パウロは、アレオパゴス（^{あかし}証の場）^ぼに行き、^いイエス様を^{さま}伝えました。^{つた}神様、^{かみさま}お祈り^{いの}します。「^{わたし}私^{おな}もパウロと同
じようにアレオパゴスに向かう^む勇気と^{ゆうき}知恵^{ちえ}をください。」